

ダイアログの場のつくり方 プロセスデザイン その2

今回は前回の続きとして、プロセスデザインをご紹介します。

プロセスデザインというのは、ダイアログの場のプログラムを進める中でのプロセス、つまり手順や過程などを描くことです。今回はダイアログの場をつくる時のはじまりから終わりまでの僕のプロセスの書き方のその2をお話ししていきます。

仲間とダイアログしながら学び合う、そんな環境をつくりたい人にオススメです。この資料がそんな1歩を踏み出せるきっかけになれば嬉しいですね。

ここまでで1枚目「参加者」、2枚目「ゴール」、3枚目「目的」、4枚目「オープニング」、8枚目「エンディング」にそれぞれ質問の答えが書き込まれているかと思います。

これから5枚目「STEP.1」、6枚目「STEP.2」、7枚目「STEP.3」を使ってダイアログの場を考えていくのですが、その前にもう1枚付箋を用意してください。

そしてその付箋に、この場の「テーマ」を書き込んでみてください。

テーマの質問

「場のゴールに向かうために、参加者と何についてダイアログしますか？」

それを書き出したら、「目的」「参加者」「ゴール」を横一列並べ、「オープニング」「STEP.1」「STEP.2」「STEP.3」「エンディング」をまた別に横一列に並べ、「テーマ」を列の間か左側かに貼り直してください。

あとは「STEP.1」「STEP.2」「STEP.3」、つまり「問い合わせ」「発散」「収束」の内容を決めれば、ダイアログの場の大きな流れは見えてきます。

「STEP.1」問い合わせのところに入るのは、「個人の問い合わせ」、「場の問い合わせの共有」あたりが基本になるので、それができればここでやることは特にありません。「個人の問い合わせ」であれば、この場が終わる時にどうなっていたいかを書き出してもらい、「場の問い合わせの共有」はこの場を通す核となる問い合わせで共有します。

ただし、そのダイアログの場でひとつの課題解決に取り組むのであれば、課題自体の共通認識を持つこともこの場でいう問い合わせになります。課題が一般化された言葉のままだと、このあとの「STEP.2」で発散する前提がバラバラになってしまって、あとから修正するよりは可能な限り言葉を噛み砕いて共有できているのが望ましいです。

「STEP.2」の発散では、問い合わせに沿って言葉を広げていきます。課題解決の場であればたくさんのアイデアをブレインストーミングなどで出し合ってみたり、それぞれの想いを共有してみたりと、ひとりの思考では起こらない多様な情報を共有していくのがこの発散の時間です。

「STEP.3」の収束では、ゴールに向かっての答えを一次的に切り取ります。ゴールが次の1歩を見つけることであれば、発散された言葉達の中から整理・分類しながら、自分なりの次の1歩や場としての次の1歩を見つけます。そして、そこまでの時間をふり返り、感じたことを共有します。

これで9枚の付箋にそれぞれに必要な言葉が書き込まれたはずです。あとはそれぞれにかかるであろう時間を書き込んで、予定の時間内に収まればダイアログの場の大きな流れは出来上りました。

今度はそれをより具体的にしていくのですが、それはまた来週の投稿でお話しするとして、ひとつの例として僕が書き出したものをこちらに載せておきます。

この設定では、僕が地元で2時間のダイアログの場をつくるのに、どんな場がつくりたいかなと思ってそれぞれの質問に答えてみました。

「参加者」

竹原の町が好きな人

竹原の町をもっと元気にしたい人

自分にできることを探したい人

20～40代

「ゴール」

実際に行動していく方向性や最初の一歩がはっきりする

他の参加者の想いを聞く

「目的」

同じ町でも見えてくるものが違う

次の行動がとりたくなる

⇒町に住んでいる自分たちが、視点を変えながら主体的に行動し続けるため

「エンディング」 10min

よし、明日からすぐに実行しよう

○○さんってそんなこと考えていたんだね

ワクワクしながら前を向いて毎日を過ごす

「オープニング」 15min

町に元気がない

もっと笑ってる人を増やしたい

「テーマ」

僕らの町がもっと元気になるためのはじめの1歩

「STEP.1」 25 min

個人の問い合わせ

場の問い合わせの共有

元気な竹原の町ってどんな町？でダイアログ

「STEP.2」 50 min

今の竹原の町はどんな状態？でダイアログ

元気な町に向かうためのアイデア出し

出たアイデアをもとにダイアログ

「STEP.3」 20 min

整理・分類して個々が実行するものを決定

ふり返り

とても大まかな流れですが、これで僕は流れをイメージすることができています。来週はこれをタイムラインに落としながら、具体的に調整していきますね。

この例をもとに自分でも流れを考えてみたいという人は、自由に使ってください。正解不正解はありませんから自信を持ってぜひ。

今回のプロセスデザインには「問い合わせ」「発散」「収束」という基本的な流れを用いています。この3部構成の順番を変えることもありますし、長い時間のワークショップでは3部構成だと考えにくい人もいるかもしれません。

それらは、それぞれの場によって変わってくるものなので、「こんな風に活用してみた」とか、「もっと具体的なことが聴きたい」とか、もしくは今回の内容で感じたことがあれば、「みんなのダイアログ」に投稿してください。

そこで学び合いながらダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>